適正な水利用 ：浮島専門家

1 水利用ガイドラインの改訂

水利用ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝの検討に伴い、従来から記載されている井戸ﾃﾞｰﾀに加えて、発電機、ﾎﾟﾝﾌﾟ等施設の稼働時の変化（異常音等）をｵﾍﾟﾚｰﾀ、住民が認識し、故障や致命的事故を防止するためのQ&Aや、直接対象ｻｲﾄ毎の最大揚水可能量等のﾃﾞｰﾀを盛り込めるよう検討しました。

従来、現況最大揚水量は「設置されているﾎﾟﾝﾌﾟ能力×稼働時間 20 時間」としていましたが、水利省仕様書(1998)に基づき「井戸試験で設定された井戸の適正揚水量×稼働10時間」と変更しました。これは、現在設置されているﾎﾟﾝﾌﾟ能力が適正揚水量より大きい場合があり、稼働時間を 10 時間とした際に過剰揚水となり、井戸の寿命を早めてしまうことを懸念したためです。また緊急時用に「井戸試験で設定された井戸の適正揚水量×稼働 20 時間」の欄（従来はﾎﾟﾝﾌﾟ能力×稼動 20 時間）を追加しました。

2. 水質分析活動

①水質分析機器ワークショップ（WS）

10 月 24 日に、PEPTAC-2 で導入した水質分析機器の技術講習会を実施しました。

ｺﾙﾀﾞ、ｼﾞｶﾞﾝｼｮｰﾙの給水施設より採水した水ｻﾝﾌﾟﾙを使用し、硝酸（NO3）、フッ素（F）について、2～5 人程度のグループで実際に分析を行いました。また、現場簡易分析ｷｯﾄの説明も実施しました。

水質分析技術講習会(水質管理 WS)
グループ毎実際の分析を実施した。

参加者からは、①各 BPF（維持管理センター）に分析機器が欲しい、②PEPTAC-1 で各 BPF にpH･ECﾒｰﾀが供与されたがﾌﾗﾝｽ語の取扱説明書がなく使用されていない、③現場簡易分析ｷｯﾄを各 BPF に配布して欲しい等の意見があり、今後対応可能なものについては随時対応することとしました。

また、ｼﾞｶﾞﾝｼｮｰﾙ BPF より、ｼﾞｶﾞﾝｼｮｰﾙにおいて砒素汚染の可能性があるため簡易分析ｷｯﾄを使用して調査したいとの話があり、現場用に用意していた砒素分析用ｷｯﾄの簡易使用法を作成し次回 WS まで貸し出すこととしました。

②室内水質分析

水質分析用ｻﾝﾌﾟﾙ採水状況。
Kouthiba Wolf(T4)

水質分析機器 WS で紹介した水質分析器での水質分析用の水質ｻﾝﾌﾟﾙの採集を実施しました。現場での水質ｻﾝﾌﾟﾙの採集は ASUFOR（水利用者組合）活動の日程と調整して BPF とともに今年度 ASUFOR 活動実施対象ｻｲﾄを訪問し採水を行っています。

採水は、丁寧に洗浄したﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙ 2 本を使用し、24 時間以上経過すると同定が困難となる鉄、ﾏﾝｶﾞﾝの分析用のため、1 本には硝酸を加え鉄、ﾏﾝｶﾞﾝの同定用としました。

室内水質分析状況。

室内水質分析をカウンターパート（C/P）の Mr.DIOP と実施しました。水質分析項目は、水温、pH、EC(電気伝導度)、OHP(酸化還元電位)、総硬度、 ｶﾘｳﾑ(K)、ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ(Mg)、ｶﾙｼｳﾑ(Ca)、鉄(Fe)、ﾏﾝｶﾞﾝ(Mn)、塩素(Cl)、ｱﾝﾓﾆｱ(NH4)、硝酸(NH3)、亜硝酸（NO2）、フッ素(F)、硫酸(SO4)、大腸菌。

水質分析機器 WS では、ｸﾞﾙｰﾌﾟ毎に分析の実習を行ったので時間は掛かりましたが、実際に今回の室内水質分析を行う際、講習を受講した Mr.Diop は各水質検査項目をﾏﾆｭｱﾙで調べながら分析を行っており、講習会の意義を確認することができました。

③pH･EC ﾒｰﾀ簡易使用説明書の作成

pH･EC ﾒｰﾀ

WS 時に各ﾌﾟﾘｶﾞｰﾄﾞから依頼があった、pH･EC ﾒｰﾀの写真等を入れた簡単な取扱説明書の仏語版を作成しました。PEPTAC-1 で供与されて以降、使用法が判らず放置されていた測定器が使用されるように各 BPF に配布する予定です。

以上